

平成 24 年度第 2 回次世代がん治療推進専門家養成プラン運営諮問委員会 議事要旨

日 時：平成 25 年 3 月 9 日（土）13 時～15 時

会 場：秋田ビューホテル 5 階牡丹の間

出席者：別紙参照

司会：柴田 浩行

（副委員長、秋田大学大学院医学系研究科医学専攻臨床腫瘍学講座教授）

議長予定の小野地副委員長が新幹線の遅れのため、議長を柴田副委員長が務めた。

委員会に先立ち、新諮問委員の北秋田市民病院長神谷彰先生の紹介があり、神谷先生から挨拶があった。

1. 開会

柴田議長から第 2 回の運営諮問委員会開会の挨拶があった。また、各委員のから簡単な自己紹介と挨拶があった。

2. 委員長の挨拶

3. 今年度事業報告について

柴田議長から資料 1 に基づき、本年度の下記事業について詳細な説明があった。

1) 「次世代がん治療推進専門家養成プラン」運営協議会

- ・第 1 回運営協議会（6 大学参加）キックオフミーティング
（日時：平成 24 年 6 月 25 日 会場：東京ガーデンパレス）
- ・第 2 回運営協議会（秋田大学が当番校）
（日時：平成 24 年 11 月 2、3 日 会場：秋田温泉さとみ）

2) 運営諮問委員会

- ・設置準備説明会
（日時：平成 24 年 11 月 3 日 会場：秋田温泉さとみ）
- ・第 1 回運営諮問委員会
（日時：平成 24 年 12 月 15 日 会場：秋田ビューホテル）

3) 講演会・FD ワークショップ

- ・講演会「次世代がん治療推進専門家養成プラン in AKITA 講演会」
（日時：平成 24 年 11 月 3 日 会場：秋田温泉さとみ）
- ・FD ワークショップ「がん学事始め」
（日時：平成 24 年 12 月 15 日 会場：秋田ビューホテル）

4) 講座新設（平成 24 年 10 月）「地域がん包括医療学講座」

5) 平成 25 年度次世代がん治療推進専門家養成プラン大学院生コース履修者入学状況

6) 次世代がん治療推進専門家養成プラン ～OJT コース設置について～

委員から on the job の期間についての質疑があり、柴田議長から大学院の必修単位の中で 15 単位という、最大の部分が英文論文の完成であり、これには 1～2 年位の期間を要する。2 年位の期間は実験には必要と思われるが、その人の能力やまた研究テーマと相談しながら臨機応変にやれるようにしたいと回答があった。また、委員から『投稿ジャーナル』に関する質疑があり、柴田議長から学位論文は「秋田医学」を含む英文ジャーナルにアクセプトされる必要があること。また、秋田大学大学院医学系研究科の規定では一定の条件を満たせば 3 年でも修了が可能であることの説明があった。

4. 来年度実施案について

柴田議長から、来年度の企画案について次のような説明があった。

- ・運営諮問委員会は 2 回ほど開催を予定しており、意見は、がんプロホームページ、メール電話等でもお寄せいただきたい。
- ・FD・ワークショップ、市民公開講座は各 1 回位開催を予定している。また、弘前大学とも共同開催の講演会を 1 回は開催したい。

1) 柴田議長から資料の 2 の 1. 市民公開講座について、運営司会等は大学院生がおこなうこととし、患者会の代表の方にもお話しいただきたいと考えており、患者会の代表の方から話を伺いながら企画を進めていきたい旨の説明があった。

藤井委員からは、この提言に賛成であり、患者会でこの話をして誰が話すか決めたいとの発言があり、柴田議長からこれについては運営委員会のメンバーでさらに議論し、窓口は“きぼうの虹”の方にお任せして、開催時期や詳細はこれから練っていききたいとの発言があった。

2) 資料の 2 の 2. 地域がん医療説明会について、本山先生から資料に基づき、詳細な説明があり、委員から開催場所についての質問があり、本山先生から場所にはこだわりは全くなく、いかに参加者を増やすかであり、ご意見があればいくらかでも変更可能である旨の発言があった。また、委員からできれば県南、県北とか分けての開催の要望があった。柴田議長からはキャラバンとして大学から出かけていくことは問題ない旨の発言があり、本山先生からは可能であれば首都圏の学生、あるいは首都圏の医療人を秋田に呼んで、そこで秋田の地域医療を聴かせて秋田に招くというコンセプトであり、形式には全くとられるものではない旨の発言があった。

柴田議長から、準備や諸々セットアップ等は大学で行い、こちらからお願いにお伺いしますので、是非協力願いたい旨の発言があった。

3) 資料の 2 の 3. Meet the Director / Professor について、本山先生から資料に基づき、詳細な説明があった。

柴田議長からはごく少数の人が膝詰めで病院長と会っていただくということで、医学生が将来どこで働きたいかというのは人物的な魅力による部分も大きいように思います

ので、それをサポートしていくというコンセプトで地域がん包括医療学講座を通じて、
願う旨の説明があった。

同意が得られればホームページに記載し、ホームページを介した申し込みを受けたい
との発言があった。また、柴田議長からこの Meet the Director, Professor に関しては、
本山先生に一任し、ホームページ（原案）を作り、それを改めて承認いただき、できれ
ば来年度早々にはこの企画を宣伝し、前向きに進めさせていただきたい旨の発言があっ
た。

5. その他

柴田議長から諮問委員会のメンバーとして、緩和医療と在宅医療の先生にも参加いた
だきたい旨の発言があり、外旭川病院の嘉藤先生及び在宅ケアの市原先生に願う事
とした。

話題提供『地域がん包括医療学講座は何を目指すのか？』

地域がん包括医療学講座特任教授 本山先生の講演が行われた。

講演では現在の秋田県の地域がん医療体制と施設別臓器別のがん患者数の統計に基づき、
他県とのがん診療連携拠点病院数の比較、また、大学病院で行っているがん医療と地域が
ん医療比較から次世代がん治療推進専門家養成プランにおいて地域がん包括医療学講座の
使命、到達目標が述べられた。また、本山先生の専門である秋田の食道癌死亡率を半減さ
せるプロジェクト、研究から、食道癌の発症リスクに関与する ALDH2 遺伝子多型及び食
道癌リンパ節転移リスク指標として独自に発見した CRP 遺伝子多型を用いた食道癌予防と
早期発見について興味深いお話がされた。